

平成 22 年度  
「安全で災害に強い地域づくり推進事業」実施要綱

第 1 趣旨

財団法人日本消防協会は、財団法人自治総合センターから受け入れる助成金を財源としてこの要綱に定めるところにより、市町村の女性消防隊及び少年消防クラブの育成強化を図るための助成を通じて安全で災害に強い地域づくりを推進するとともに、宝くじの普及広報を行うものとする。

第 2 助成対象事業者

助成対象事業者は、女性消防隊又は少年消防クラブ（少年消防クラブ活性化推進会議において選定されたモデル少年消防クラブに限る。）を有する市（区）町村とする。

第 3 助成対象事業

1 助成対象事業は、次の基準に適合するものとする。

- (1) 宝くじの普及広報の効果が発揮できるものであること。
- (2) 他に国の補助金の交付を受けないものであること。
- (3) 当該年度に確実に事業を完了するものであること。

2 助成対象事業は、次に掲げるものとする。

(1) 女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業

初期消火活動及び予防活動助成事業

常備消防の展開に時間を要する地域、またはサラリーマン消防団員の増加により日中の消防力が低下している地域等において、女性消防隊が火災被害を最小限に軽減する初期消火を行う D - 1 級軽可搬消防ポンプ等の購入及び女性消防隊が防火思想普及に努めることを目的とする予防活動に必要な物品購入に対する助成。

初期消火活動及び応急救護普及活動助成事業

常備消防の展開に時間を要する地域、またはサラリーマン消防団員の増加により日中時の消防力が低下している地域等において、女性消防隊が火災被害を最小限に軽減する初期消火を行うための D - 1 級軽可搬消防ポンプ等の購入及び救急隊到着までの救命率を向上させるため実施する応急処置及びその訓練に必要な物品購入に対する助成。

(2) 少年消防クラブ消防防災実践活動モデル事業

少年消防クラブが、訓練や学習においてより実践的で効果的な活動ができるよう、必要な物品購入に対する助成。

3 上記 2 の (1) の助成対象資機材は、別表 1 のとおりとする。

4 上記 2 の (2) の助成対象資機材は、別表 2 のとおりとする。

第 4 助成額

1 助成率は、助成対象経費の 100% 以内とする。

2 助成額は、次に定める範囲内の額とする。

- (1) 初期消火活動及び予防活動助成事業（1 件当たり） 1,000 千円
- (2) 初期消火活動及び応急救護普及活動助成事業（1 件当たり） 1,000 千円
- (3) 少年消防クラブ消防防災実践活動モデル事業（1 件当たり） 1,000 千円

## 第5 宝くじの普及広報

- 1 第3の2の事業に係る助成金の交付を受けた市(区)町村長は、本事業の財源が宝くじの普及広報事業費であることに鑑み、当該助成備品に別に定める表示(宝くじの普及広報事業「表示に関する基本デザインマニュアル」参照)を行うとともに、市(区)町村の広報誌を通じ「宝くじの助成金で整備した」旨の広報も行うものとする。

なお、「宝くじ普及広報デザイン」の表示にかかる経費は助成対象とする。

## 第6 助成の申請手続き

この要綱により助成を受けようとする市(区)町村長は、財団法人日本消防協会会長(以下「会長」という。)に助成申請書を提出するものとする。市(区)町村長からの申請にあっては、都道府県知事は、当該助成申請書に関し意見を付して送付するものとする。

## 第7 助成の決定

- 1 会長は、送付された助成申請書の内容を審査し、助成する事業及び助成額を決定するものとする。
- 2 1により助成を決定した場合には、会長は市(区)町村にあってはその旨を都道府県知事を經由して市(区)町村長に通知する。

## 第8 助成事業の内容の変更

助成対象事業について変更が生じた場合にあっては、市(区)町村長は変更する内容とその理由を付して、直ちに都道府県知事を經由して、その承認を受けるものとする。

## 第9 助成金の交付

- 1 市(区)町村長は、助成対象事業を完了し、助成金を受けようとするときは、実績報告書を都道府県知事を經由して会長に2部提出するものとする。
- 2 会長は、実績報告書を受理した後、その交付すべき助成金の額を確定し、市(区)町村に交付するとともに、その旨を都道府県知事を經由して市(区)町村長に通知するものとする。

### < 様式一覧 >

	女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業	少年消防クラブ消防防災実践活動モデル事業
助成申請書	別記様式第1号	別記様式第4号
助成申請に関する意見	別記様式第2号	別記様式第5号
実績報告書	別記様式第3号	別記様式第6号

## 助 成 対 象 資 機 材

事 業	資 機 材 例
<p style="text-align: center;">初期消火活動 及び 予防活動助成事業</p>	<p>【初期消火活動】 D - 1 級軽可搬ポンプ一式《必須》 その他活動に必要な資器材</p> <p>【予防活動】 法被・ジャンパー等 その他活動に必要な資器材</p>
<p style="text-align: center;">初期消火活動 及び 応急救護普及活動助成事業</p>	<p>【初期消火活動】 D - 1 級軽可搬ポンプ一式《必須》 その他活動に必要な資器材</p> <p>【応急救護普及活動】 CPR 訓練人形・訓練用マット等 その他活動に必要な資器材</p>

(注) 資機材例のうち、「その他活動に必要な資器材」とは、別紙 1 に定める参考例による。

別表 2

助成対象資機材	
< 初期消火訓練用資機材 > D - 1 級軽可搬式ポンプ一式 (平成22年度D - 1 級軽可搬消防ポンプ仕様書参照のこと)	
< 災害救助訓練用資器材 >	
	救助工具収納箱
	ヘルメット
	手袋
	防煙マスク
	LED 強力ライト
	ハンド型メガフォン(トラメガ)
	リヤカー(ノーパンク)
	一輪車
	脚立
< 応急手当訓練用資器材 >	
	人体モデル(ケース付)
	A E D トレーナー
	簡易担架
	布担架
< 学習等その他クラブ活動の円滑な実施に必要な資器材 >	
	プロジェクター
	スクリーン
	簡易テント